

白河高校同窓会報

発行所
郵便番号 961-0851
福島県白河市南登り町54
白河高校同窓会
電話 ☎ 1116 番
振替口座 郡山 02100-4-2774

発行人
安田好伸
編集委員長
堀川哲雄
(南古楓堂堀川印刷所)



さらに地域から 愛される学校へ

校長 田中 誠

同窓生の皆様、日頃より本校教育にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

私は今年四月に着任いたしました。以前、教頭として二年間お世話になっておりました。同窓生の皆様に顔なじみの方々も多く、大変心強く感じております。改めて感じるのは、地域からの本校に対する熱い思いです。いくつかの支部も含め、同窓会に参加させていただきましたが、毎回皆様の母校に対する熱い思いには驚かされるところにも現場を預かる者としての引き締まる思いがしました。

生徒たちは素直で、学校生活に本気で取り組んでいます。今春の大学入試において、久しぶりに国立大学合格者が一〇名を超えることができました。その要因として、最後まで粘り強く生徒たちが戦ってくれたことがあげられます。多様化された入試の中で、後期試験まで諦めずにチャレンジし

たことが結果に繋がったと考えています。部活動においても、今年度も剣道女子個人、書道、写真、美術部がそれぞれ全国大会出場を成し遂げました。そのほかにも本校ではそれぞれの競技力・表現力を高めようと懸命に努力している生徒たちの姿を日常的に見ることが出来ます。

新しい時代にふさわしい高大接続や大学入学者選抜のあり方等について答申がなされ、三位一体の改革とよばれる大学・高校・大学入学者選抜が一体となった教育改革がいよいよ現実のものとなってきました。今回は社会からの有為な人材育成をという要請もあり、改革の本気度も高いといわれています。二年後の大学入試からは、国語、数学において記述式が取り入れられたり、英語において従来を加えた四技能が評価されることになるなど大きな変化があります

(評価のために英語の民間試験が導入される予定です)。さらに主体的に学ぶ姿勢や協働性、多様性を認める力等も評価の対象になりうるということで、高校もこの教育改革への速やかな対応を迫られています。一方で、われわれ教職員を取り巻く環境では、多忙化が問題となっています。生徒と向き合う時間を確保するという観点から、教職員の多忙化を解消しようという動きがみられます。その最たるものとして部活動のあり方が議論されており、結果が求められるだけでなく、練習時間を制限したり休みを適宜設けたりすることが求められてきております。こうした中、地域の教育力の活用は将来、大きな意味を持つと思われまます。私たちは今年、地域社会と連動し、地域から愛される学校になろうと目標を掲げました。こうした時代であるからこそ、地域の皆様に協力を願い、教育に参画していただくことも考えているところではあります。

私たちは四年後には百周年を迎えます。地域と連動した白河高校のあり方を考える意味では良い機会なのかもしれません。皆様のお力を借りながら、これまでの伝統を繋ぎ、新たな白河高校を想像していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



緞帳 (白河文化交流館コミネス) 原画 今井珠泉 (中22) (巾20m、高さ10m)



創立百周年にむけて

同窓会長 安田好伸(高18)

本校は大正十一年に白河中学校として創立されました。第二次大戦前後の動乱期を経て、昭和二十三年に白河高等学校と改称しました。

創立以来、九十六年の歴史と伝統に支えられた、県南地域の基幹校として、二万四千有余名のさまざまな分野で活躍する人材を輩出してきました。

その間、昭和四十五年に理数科が設置され、平成九年に男女共学が実施されるなど、多くの変遷がありました。

また昭和四十一年の水泳部の二十一連勝があり、昭和三十年に起きた山岳部の甲子遭難があったりしました。

その時々在校生が、幾多の歴史を形成してきました。創立以来、九十余年にわたる各学年の活動が白河の歴史を形づくっているのです。

同窓会の会合で話題になるのは、校歌や何曲もの応援歌を練習したこと、先生方の授業の特徴とニックネームについて。ま

た、創立記念マラソンや、クラス対抗郡内一周駅伝の思い出について。そして体育系、文科系の日々の部活動の苦労話などです。これらの思い出話は、先輩・後輩に共通しての話題であり、大いに盛り上がるのです。

さて、本校は四年後に創立百周年を迎えます。大きな節目であり、大規模な記念事業を実施する計画です。また充実した記念誌を発行し、意義のある講演会を実施することで、さらなる五十年・百年の発展を期する機会にしたいと考えます。

同窓会と後援会、保護者と教師の会と学校側による実行委員会を構成して、綿密な事業計画を作成して実行していきたいと思えます。

多額な予算規模が予想されますので、各学年単位の同窓会理事の方々を中心に、募金をお願いすることになると思えます。

まずは百周年までの四年間、同窓会の賛助金をご協力いただければ幸甚であります。

平成30年度同窓会総会開催

去る五月十九日(土)、

平成三十年度白河高等学校同窓会総会が東京第一ホテル新白河にて開催され、七十八名の参加がありました。今年度幹事学年である高28回卒の矢内宏氏の司会進行のもと、中村彰副会長(高20)が開会を宣言し、参加者全員での校歌斉唱を行った後、この一年間のうちに逝去された会員の方々のご冥福を祈って、黙祷を行いました。

続いて安田好伸会長(高18)からの挨拶があり、次に田中誠校長から白高の近況報告を含めての挨拶がありました。その後、各支部を代表して出席された、西郷支部長の相馬博氏(高17)、埼玉支部長の石井久雄氏(高22)、東京登龍会事務局長の松岡久幸氏(高22)が金澤隆夫事務局長(高23)から紹介されました。続いて、来賓を代表して後援会会長の櫻井和



朋氏(高12)と保護者と教師の会会長の櫻岡敏之氏(高43)からご祝辞をいただきました。その後、田中校長から、この春、白高に赴任した櫻田涉教頭と、大竹儀一先生(高31)はじめ新たに母校に赴任した三人の同窓生が紹介されました。

続いて議事に入りましたが、慣例により還暦を迎える高28回卒業生の中から秋元幸一氏が議長に選出されました。まず、庶務の金内貴弘氏(高40)から平成二十九年度事業報告、会計の石塚次男氏(高26)から平成二十九年度決算報告が、加えて会計監査の立花栄治氏(高18)から監査報告があり、それぞれ承認されました。続いて、金内氏から平成三十年度事業計画案、石塚氏から平成三十年度予算案

が提案され、承認されました。その後、鈴木雅文副会長(高28)から、四年後に迫った母校の創立百周年に関して、昨年度の総会での決定を受けて、記念事業に対して同窓会としても学校側及び関係機関と協力して準備を進めていくことの確認と、学校内に「創立百周年事業校内推進委員会」が設置され、事業案等の検討が始まったことについて報告がありました。

最後に金子尚芳副会長(高26)が閉会を宣言し、総会を終了いたしました。



平成29年度 白河高等学校同窓会会計決算書

収入の部 (単位 円)

項目	本年度予算額	決算額	備考
繰越金	1,262,299	1,262,299	
入会金	955,200	956,400	1,200円×797名
賛助金	2,000,000	2,244,000	
雑収入	501	40	預金利子
合計	4,218,000	4,462,739	

支出の部 (単位 円)

款 項目	29年度予算額	決算額	備考
総務費	485,000	433,472	
事務費	15,000	15,000	事務用品
通信費	90,000	88,840	切手・郵便料金等
会議費	120,000	85,608	常任理事会費
総会費	120,000	104,400	総会諸経費
旅費	60,000	60,000	東京登龍会参加旅費
慶弔費	20,000	19,624	香典・弔電
交際費	60,000	60,000	広告掲載費
教育助成費	450,000	423,000	
学校図書充実費	150,000	150,000	
体育文化助成費	90,000	63,000	看板代
卒業記念品助成費	60,000	60,000	
進路対策費	150,000	150,000	
事業活動費	2,202,000	2,173,580	
支部育成費	70,000	43,580	支部総会祝い金
会報発行費	1,930,000	1,930,000	会報印刷代、送料、諸経費
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	200,000	
基金	1,000,000	150,000	
同窓会基金	1,000,000	150,000	
予備費	81,000	58,137	
予備費	81,000	58,137	
合計	4,218,000	3,238,189	
次期繰越金	0	1,224,550	

平成30年度 白河高等学校同窓会予算書

収入の部 (単位 円)

項目	30年度予算	前年度予算比	備考
繰越金	1,224,550	△ 37,749	
入会金	909,600	△ 45,600	1,200円×758名
賛助金	2,000,000	0	
雑収入	850	349	
合計	4,135,000	△ 83,000	

支出の部 (単位 円)

款 項目	30年度予算	前年度予算比	備考
総務費	515,000	30,000	
事務費	30,000	15,000	事務用品、卒業アルバム代
通信費	90,000	0	切手・郵便料金等
会議費	120,000	0	常任理事会
総会費	120,000	0	総会諸経費
旅費	60,000	0	
慶弔費	20,000	0	香典・弔電・看板代
交際費	75,000	15,000	広告掲載費
教育助成費	465,000	15,000	
学校図書充実費	150,000	0	
体育文化助成費	80,000	△ 10,000	看板代
卒業記念品助成費	85,000	25,000	印鑑代補助
進路対策費	150,000	0	
事業活動費	2,222,000	20,000	
支部育成費	70,000	0	同窓会・支部総会祝い金
会報発行費	1,950,000	20,000	会報印刷代、送料
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	0	図書カード、楯購入・文字入れ
基金	150,000	△ 850,000	
同窓会基金	150,000	△ 850,000	
予備費	783,000	702,000	
予備費	783,000	702,000	
合計	4,135,000	△ 83,000	

東京登龍会第2回 大同窓会開催報告

常任幹事
澤野昌雄(高10)

青葉茂れる天頂の登龍門、東京大学・赤門近くの「ホテル山館」に於いて平成30年6月23日、東京登龍会第2回大同窓会を開催しました。

司会は芳賀哲男幹事(高23)が務め、遠藤泰司会長(高9)の挨拶、田中誠校長による学生生活の現況報告、中村彰同窓会副会長の進捗状況の報告があり、両氏から祝賀の言葉を頂戴しました。又、来賓として櫻井和朋後援会長にも出席頂きました。

新卒者大野成(高70)昨年に続き有賀才貴(高69)両君の出席及び第1回に続き安澤拓海君(高68)の出席があり、最年長者松崎忠利氏(高4)を始めとして来賓を含め62名が出席し盛会でした。講話は元母校教諭植村美洋先生(ペンネーム、白川悠紀)による、「白河戊辰150周年」というテーマで大政奉還から奥羽越列藩同盟が成立する迄の流れ、戊辰の役白河口の戦いの実情、敗戦の結果と評価及び戦後処理の講話で大変興味深く拝聴しました。

併せて講師著書『白河大戦争』と白河市の戊辰150年記念ピッチの頒布とサイン会を行いました。その後、加藤直二企画委員長



(高27)による企画委員会各部会創設の趣旨説明の後、引き続き各部会担当者が新設の「広報部会」「登龍会フォーラム部会」「歩こう会部会」「白河歴史探訪部会」「音楽部会」「世代交流部会」の内容を紹介しました。懇親会は佐藤孝彦幹事(高22)の司会で進められ、今回も嬉しいことに多くの初参加者が紹介されました。最後に全員が肩を組んで心に残る白河高校校歌及び応援歌・真萩が浦・花や一時を合唱し解散しました。今後は同窓会の多様化に基づき企画委員会各部会が実施され、卒業年度の枠を超えた大勢の同窓生参加により更に和気藹々とした会に発展することが期待され楽しみです。最後にありますが、当会場は国井隆志常任幹事(高28)の尽力により設営されたもので、この紙面を借りてお礼を申し上げます。

平成30年講演会の開催について

五月十九日(土)、同窓会総会の開会前に、平成30年度の講演会が開催されました。

今回は外務省大臣官房ODA評価室長・開発評価ネットワーク(OECDの下部組織)副議長の村岡敬一氏と、有限会社仲田種苗園代表取締役社長でNPO法人ふくしま風景塾理事長の仲田茂司氏を講師としてお迎えしました。お二方ともに本校の高28回卒業生で、国際的な舞台で広く活躍されており、ご自身のご経験をふまえてとても有意義なそして楽しいお話をいただきました。

まず、村岡氏からは「国連持続可能な開発目標」誰一人取り残さない世界の実現に向けて」という演題で、二〇一五年の国連サミットで採択された十七の国際目標「SDGs」について、その特徴、国際協力機構(JICA)での取り組みや、今後の日本政府としての展開について分かり



村岡敬一氏講演の様子

やすくお話いただきました。今後は、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックと連携しつつ、国連の掲げる二〇三〇年の目標達成に向けてさらに取り組みを加速させていきたいとのことでした。

次に仲田氏からは、「ふくしま産里山ビジネス」という演題で、ご自身の少年時代から高校時代の山との出会い、京都学派への憧れから京都で考古学を学んだ学生時代、歴史民俗資料館の学芸員から家業の種苗園の経営まで、幅広いご経験をふまえたお話をいただきました。特に「私の原風景を提供する」という「植生



マット」の取り組みが各地で高い評価を受け、東京ミッドタウンなどで活用されている事例には、皆さんとても興味深く聞き入っていました。最後にブータン王国での活動が紹介され、ご自身が手がけた日本庭園を秋篠宮眞子さまにご案内した際の思い出をユーモアを交えて印象深くお話しいただきました。

創立百周年に向けて

同窓会副会長 鈴木雅文 (高28)

昨年の同窓会報でお知らせ申し上げましたが、白河中学の創立から、2022年で100周年を迎えます。本年に入り、白河高校後援会、父母と教師の会、それぞれの総会において、周年に取り組みむことが決議されました。これにより万全の体制で100周年を迎えることができるようになります。現在は、学校にアンケートを取り、記念事業、記念講演の要望などをお聞きし、準備を整えているところです。今年度中には実行委員会準備会を立ち上げ、4者で協議を行っていく所存です。

つきましては、名簿の作成と、記念誌は時間がかかることから早目に着手したいと考えております。同窓生の皆様には、名簿の確認や資料、写真のお願いをさせて頂く事になると存じますので、その節はどうぞ宜しくお願いいたします。

後援会入会のおすすめ



後援会会長 櫻井和朋 (高12)

第15回後援会総会は、平成30年4月28日体育館で行われ、全議案可決あるいは承認されました。各教室へのエアコン設置は、今年度で全て完了です。特に今夏は異常な暑さが続き、大変役立つと思います。

さて、甲子園大会も、今年は100回記念となり、56代表校が出場しました。(内、公立校は、昨年同様8校)。今大会は、秋田県立金足農が決勝まで進み、閉会式の講評で八田英二審判委員長が「高校野球のお手本」と讃えました。

ところで、100回という事で、様々なイベントが行なわれました。毎日の第一試合に始球式が行なわれ、初日は松井秀喜、決勝では、三沢の太田、松山商の井上など、伝説的な方々が登板しました。

又、「甲子園・審判の集い」も開かれ、甲子園で審判をした約200人が全国から招かれ、私も40年ぶりに旧交を温めて参りました。

結びに、安積高校を甲子園に出場させた田中誠監督が、今年4月本校校長として着任しました。この機会に白河の甲子園出場を切に願います。ご協賛よろしく申し上げます。

母校だより

人事異動

平成三十年度の人事異動は、次の通りです。

三月末には、太田孝校長が定年退職されたのをはじめ、合わせて十六名の教職員が、ご退職・ご転出となりました。そして、四月一日には、石川高校から田中誠校長をお迎えし、あわせて十六名の教職員の方々を本校にお迎えいたしました。

その中で同窓生は、ご退職が添田恒夫先生(高28・国語)、根本文彦先生(高28・理科)、ご異動が吉田秀敏(高39・英語)が白河二高教頭へ、芳賀文章(高57・数学)が原町高校への合わせて四名でした。また、新たに転入された先生方は、安積高校から大竹儀一先生(高31・地歴公民)、会津農林高校から鈴木敏夫先生(高54・理科)、新規で芳賀太伍万先生(高63・公民)の三名です。

今年度も、本校は教育熱心で優れた指導力を持つ先生方をお迎えすることができました。それぞれの専門分野はもろろのこと、学校生活の様々な場面で暖かく、そしてきめ細やかに生徒に接していただき、地域のリーダーとして、さらには国際社会の中で活躍できる人材として生徒たちが成長できるよう、ご指導いただいております。



教頭 櫻田 渉

この四月に原町高等学校から異動いたしました。これまで様々な分野に優秀な人材を送り出してきた県内有数の伝統校に勤務できることは無上の喜びです。一層身を引き締めて、職務にあたりたいと思います。

創立百周年を迎えるにあたり、一人一人の人格を尊重した教育活動を展開しながら、より地域に愛される学校づくりをしていくことが本校の目標の一つです。その達成のためには、同窓会の皆様をはじめ、保護者と教師の会、さらには地域の方々との連携が不可欠です。将来を担う人材育成のため、ご協力をよろしくお願いいたします。



教諭 大竹儀一 (高31)

母校勤務は二度目となります。前回は本校創立八十周年に携わることができました。母校の教壇に立てるといふのは教員として大変な喜びです。真面目で向上心に溢れる後輩たちとともに日々を過ごすことができ、毎日充実しています。生徒それぞれが抱いている夢

を叶えることができるように、さらには母校が百周年にむけて新たな伝統を築くことができるように微力ながらも尽力していきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。



教諭 鈴木敏夫 (高54)

平成十四年三月に卒業し、平成十七年六月に教育実習をさせていただきました。そして平成三十年四月より教壇にたつております。数ヶ月の月日しかたっておりませんが、忙しくも充実した日々を送らせていただいております。白河高校で学んだことを白河高校の後輩達に伝えていけることは大変名誉なことですが、不安もあります。しかし、本校には経験豊かな先生方がたくさんおります。また、多くの心強いOBの先生方がおります。そのような先生方にご指導・ご鞭撻をいただきながら一所懸命に働いていきたいと考えています。



講師 芳賀太伍万 (高63)

今年度から常勤講師として白河高校に参りました。私が卒業した七年前は、ちょうど震災の年に当たり、その後母校がどの

ような状況に見舞われたか確認ができず、四月を迎えていたことを思い出します。

今、母校に帰り、生徒の熱気と教師の方々の熱意がそこには残り、母校は健在どころか、成長を続けているということを感じております。私自身も白河高校の益々の発展のために尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

図書館だより

図書主任 藤井 克憲

この四月に図書主任となりました。様々な市町村立・県立・国立等の図書館の利用者カードを保持している本好きの私にとつて、これほど光栄なことはありません。本校の図書館は、進路対策関係の資料はもちろん、最新の話題作まで、非常に充実した内容の書籍が取り揃えられ、それらを手軽に閲覧できる恵まれた状況です。雑誌類は同窓会

賛助金納入のお願い

会報第一四〇号を高50回卒業までの皆様にお届けします。皆様よりお寄せ頂く賛助金は、三頁の予算・決算書にご覧頂きますように、本会の活動と母校への援助のために使われます。平成二十九年度は二、二四四、〇〇〇円をご協力頂きました。感謝

によるご寄付と購買部からの補助で購入させて頂いております。また、同窓生嶋倉晃様より、平成元年から毎年多くの図書をご寄贈頂いております。文系・理系の両面において高い専門性と学術性を有する「嶋倉文庫」の総数は四千三百冊を超え、厳選された良書が、生徒たちの知的好奇心を満たしております。

このような恵まれた環境の整備にご尽力くださっている同窓会の皆様のご厚志に心より感謝申し上げます。



申し上げます。本年もよろしくお申し込み申し上げます。賛助金は、一口一、〇〇〇円できるだけ二口以上でご協力ください。郵便振替番号 〇二一〇〇一四二七七四 加入者名 福島県立白河高等学校同窓会

進路報告

北海道大学一名、東北大学五名、筑波大学六名、東京外国語大学一名、千葉大学三名など国公立大学二一名合格

進路指導主事 渡部正一

今春の卒業生二七四名の進路状況は下記の通りです。四年制大学進学者が二五三名(全体の九二・二%)、短期大学六名、専門学校五名、留学二名でした。

際だった特徴としては国公立大学現役合格者数です。県内を見回しても百名以上の実績を挙げているのは他に六校のみですが、本校は七年ぶりに一一〇名を突破しました。合格者が多かったのは、福島大学二一名、新潟大学十四名、埼玉大学八名、茨城大学六名、宇都宮大学六名などですが、地理的に広範囲にわたって合格者が出たことも特徴です。具体的には、北海道教育大学一名、岩手県立大学二名、群馬県立女子大学一名、新潟県立大学二名、長岡造形大学一名、都留文科大一名、京都府立大学一名など。私立大学は、昨年度比プラス三十で、早稲田大学二名、明治大学十一名など、現役合格延べ四一七名でした。また、部活動をしてきた生徒の健闘も顕著で、昨年度比プラス十名の六十九名が国公立大学に合格しました。

先輩方の地道で粘り強い努力の結果だと思えますが、受験に限らず、日頃の積み重ねが求められます。あきらめず、周囲と協調しながら自分の目標にこだわり追求する姿勢は、社会に出て大切な資質です。今年の三年生も先輩方に追いつき追い越せの気概をもって頑張ってもらいたいと思います。

平成29年度卒業生 大学等合格状況一覽

《国公立大学・準大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists various national and public universities with their respective student counts.

《私立大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists private universities with their respective student counts.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists various private universities with their respective student counts.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists various private universities with their respective student counts.

《短期大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists short-term universities with their respective student counts.

《専門学校》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists vocational schools with their respective student counts.

《留学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists students who studied abroad.

《予備校等》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, H28, H27. Lists preparatory schools and other institutions.

平成29年度卒業生 進路先状況一覽

Table with columns: 国公立大学(含む準大学), 私立大学, 短期大学, 留学, 専門学校, 小計, 次年度進学予定者, 合計. Provides a summary of the career paths of graduates.

進学報告

東北大学へ進学して



一組
塩田 祐生

高校一年生のころから志望していた東北大学に進学し、約半年が経過しました。この半年をふり返ると、とても充実したものであったと思います。

学習面においては、高校までの学習をより深めていくことになりませんが、高校までと大きく異なると思うことが二点あります。一点は、自分で授業を選んで時間割を組むことです。一・二年生のうちはいわゆる「一般教養科目」といわれるものが多く、自分の興味・関心に合わせて授業を選ぶことが可能です。また、担当教授によっては、同じ科目でも、出席確認の有無や課題やテストの量などにも差があり、これも大学の授業の特徴であると思います。もう一点は、アウトプットの機会がとても多くなることです。自分の意見を人前で発表したり、調べたことなどをレポートとして文章にしたり、スライドを用いて発表したりということが一年生前期から要求されます。高校まではアウトプットの機会がなかなかないためはじめは大変ですが、だんだん慣れていくので、経験を積んでいくことが大切だと思います。

また、東北大学には150を超える部活動・サークルが存在し、それぞれが自分の好きなことしたり、新しいことに挑戦したりすることが出来ます。私は学生会報道部に所属し、学内最大のメディアである東北大学新聞の制作に携わっています。他の部活動・サークルへの取材をはじめ、学内行事や学外への取材まで、様々な人と会って話を聞いたり、聞いたことを文章にしたりという活動をしています。後輩の皆さんもぜひ現在志望している大学へ合格して、好きなことを勉強し、好きなことに打ち込める大学生活を送れるよう頑張ってください。仙台の地から応援しています。

筑波大学へ進学して



一組
松浦 奈々帆

早いもので、大学に進学してから半年が経とうとしています。高校とは違う授業形式や課題、慣れない一人暮らしで、初めは不安な時もありましたが、今は充実した日々を過ごしています。

私が所属している生命環境学群生物資源学類は、農業や環境が主な学習分野となっています。理科や数学、経済学等の基本的な科目に加え、実習には、田植えや牛のスケッチなどがあり、中には捕まえた害虫の数をクラスごとに競うものもあります。そして、生物資源学類は文理両方の受験方法があるので、得意分野が異なる人が集まっています。

す。それぞれの知識を活用し、助け合ってテストを乗り越えています。また、全国から学生が来ているので、それぞれの出身地域の文化を知ることができてとても面白いです。

私は農業に興味があるので、畑で野菜を作ったり、近くの農家さんのお手伝いを行なうサークルに入りました。朝7時に畑に行って先輩に教えてもらいながら野菜の世話をし、収穫した野菜を使って、みんなでご飯を作って食べたりしています。最近では、農家さんとほかの大学の人と一緒に意見交換をする機会もあり、サークルに入ってから一層自分の世界が広がったように思えます。

受験期はつらい時、やめなくなる時がたくさんあると思いますが、大学で学んでいる自分の姿を想像して、最後まで頑張ってください。皆さんが素敵な大学生活を送れることを願っています。

埼玉大学に入学して



二組
熊田 有純

私は現在、埼玉大学の教育学部で大学生活を送っています。

すでにもう半年が過ぎようとしている今でも、私は小中高校とは異なる大学での生活に慣れるのに苦労しています。まず、大学には、もし自分が遅刻や欠席をしたとしても、叱ってくれないような先生は滅多にいません。自分自身の行動次第で、単位を

取得できるかどうかが決まるため、今まで以上に自分の行動に責任を持たなくてはなりません。次に、全ての大学に共通して言えることではないかもしれませんが、大学の先生は職員室のような場所に一カ所に集まっているわけではないため、質問をしたいときにはキャンパス内を移動する必要がある、体力不足の私にとっては一苦労です。

辛いと感じることもあり、私が、私はそれ以上に、大学で自分の将来の夢である「教員」という職業について深く学ぶことができ、嬉しく思っています。いじめの問題など、現実的な問題について話し合う授業を受けたりする中で、言葉ひとつにしても、教員は責任をもたなくてはいけないなど、考えることが多くあり、授業が終わった後でも、自分の頭の中で授業の内容が広がっていくような感じがします。また、大学には様々な考え方をを持った人々がいるため、色んな人と接することで、自分の視野を広げることが出来ます。

私はまだ大学生になっただけで、偉そうなことは何も言えません。白高生の皆さんが希望の進路に進めるよう、応援しています。

福島大学に進学して



三組
奥原 理香子

大学に入学してもう半年が過ぎようとしています。最初は慣れない環境で大変でしたが今で

は楽しい毎日を送っています。私は現在、福島大学行政政策学類で学んでいます。せっかくの機会を頂いたので福島大学行政政策学類について紹介したいと思います。

福島大学は緑豊かなキャンパスで自然と共に学べるとても素晴らしい大学です。私が学んでいる行政政策学類は、地域社会の課題に向き合い、地域づくりに貢献できる人材を養成しフィールドワークやディベートなど活動的な学習をすることが出来ます。よく、経済経営学部と何が違うの？と聞かれることがありますが、入試方法が違っていたり進路状況で公務員が経済経営学部より多かったりします。私が今取っている科目は一年生はほぼ共通で、社会学、法学、政治についての基礎を学ぶ科目になっています。それ以外は自由選択科目で自分の興味関心に従って選択することが出来ます。履修登録はなかなか難しいと思うかもしれませんが、行政政策学類では先輩からのサポートが手厚く、不安は少ないと思われま

す。次にサークルについて、福島大学ではメジャーな公認サークルはもちろん非公認でマニアックなサークルも沢山あるので自分に合ったサークルが見つかると思います。サークルだけでなく学祭やオープンキャンパスに関する団体にも入れるので興味がある人はお勧めします。私はオープンキャンパスの学類説明会の団体で活動しましたが、とてもやり甲斐があつて最高の体験が出来たと感じています。是非大学選びの参考にしてください。そして後悔のないように受験勉強頑張ってください。

部活動大会記録

各部の主な成績

陸上競技部

第六十四回福島県高等学校体育大会
会県南地区大会

男子500m競歩

第1位 緑川 大海

男子八種競技

第1位 根本 大輝

第六十四回福島県高等学校体育大会

男子500m競歩

第1位 緑川 大海

男子八種競技

第2位 根本 大輝

第七十一回福島県総合体育大会

男子500m競歩

第1位 緑川 大海

第七十三回福島県陸上競技選手権大会

男子500m競歩

第2位 緑川 大海

山岳部

第六十四回福島県高等学校体育大会

優秀パーティ

白河高校男子Aパーティ

水泳部

第六十四回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

男子100m平泳ぎ

第3位 近藤 晃仁

男子200m平泳ぎ

第3位 近藤 晃仁

男子100m背泳ぎ

第2位 山野辺 幸太

男子100m背泳ぎ

第3位 山野辺 幸太

女子50m自由形

第3位 山野辺 咲紀

卓球部

第六十四回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

女子学校対抗

第3位 白河高校

第三十六回白河選手権卓球大会

女子1部シングルス

第1位 佐藤 仁美

女子1部シングルス

第2位 番橋 飛香

女子ダブルス

第2位 佐藤 仁美・番橋 飛香

第七十一回福島県総合体育大会
会県南地区大会

少年女子団体

第3位 白河高校

バレーボール部

夏季県南バレーボール選手権大会

男子

第2位 白河高校

ソフトテニス部

第六十四回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

男子団体の部

第3位 白河高校

女子団体の部

第2位 白河高校

女子個人の部

第2位 大山 華奈・松藤 里紗

サッカー部

第六十四回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

第5位 白河高校

弓道部

第四十七回福島県弓道遠的大会

男子の部 個人

第3位 遠藤 選志朗

第二十一回福島県弓道遠的選手権大会

男子の部

準優勝 新井 治喜

第七十一回福島県総合体育大会

少年男子団体

第5位 白河高校A

少年男子個人

遠的 第5位 新井 治喜

剣道部

第四十三回牡丹杯剣道大会

高校女子の部

第1位 白河高校

第六十四回福島県高等学校体育大会

会県南地区大会

女子団体

第1位 白河高校

女子個人

第1位 猪俣 真理子

女子個人

第2位 折笠 桃子

第六十四回福島県高等学校体育大会

女子団体

第3位 白河高校

第七十一回福島県総合体育大会

会県南地区大会

女子個人

第1位 花岡 彩菜

第七十一回福島県総合体育大会
会県南地区大会

少年男女の部 II部

第3位 佐藤クレア快

第七十一回福島県総合体育大会

少年男子II部

ダブルス

第3位 金澤 波音・太田 宙

平成三十年度全国高等学校総合体育大会

入賞メダル图案

最優秀賞 高橋 晴哉

吹奏楽部

第五十六回福島県吹奏楽コンクール

高等学校小編成の部

銀賞 白河高校



部活動報告

第65回全国高等学校

剣道大会に出場して

剣道部顧問 佐藤裕展

平成30年度インターハイ（8月9日～12日三重県伊勢市三重県営サンアリーナで開催）の個人戦に3年の猪俣真理子が出場してきました。今シーズンの剣道部は、県大会ベスト8をチームの目標としながらも現3年の猪俣、そして主将の折笠桃子の2名は全国大会への出場そして全国で活躍することを目標に全体での取り組みとは別に高い意識をもって個人的に様々な努力を重ねてきました。残念ながら猪俣のみのインターハイ出場ではありましたが、上級生2名で下級生を励ましつつも自分たちは厳しい勝負の世界に身を置き頑張ってきたことが結果的に三重インターハイに進めた原動力だったと思います。対戦相手は、東京都淑徳巣鴨高校の斉藤選手でした。白河にも何度も来ていただき複数回対戦した相手でした。この初戦を突破するとお互いに上位進出の可能性があると感じていました。試合が始まって間もなく得意の相引き面を猪俣が打ち有効打のように思えましたが、残念ながら旗が上がらず、その後手の内を知っている者同士の膠着した



戦いが続き延長で残念ながら面を打たれ敗れました。敗れはしたものの良い試合はできたと感じます。しかしながら本気で上位進出を狙っていた猪俣にとっては悔しい試合だったと思います。高校剣道での悔しさを大学剣道での頑張りに変えてもらいたいと思います。これまで支えていただきました全ての方々に感謝しております。ありがとうございます。次のシーズンではチーム白河としてインターハイ出場を現1・2年生が本気で狙っているようです。本気で勝ちを目指すことは、見た目や聞えの良さに比べ相当大変であることは本人たちも良く分かっているようです。最近では勝敗にこだわらずという言葉を良く耳にしますが、本気で目指して耐え抜いた人間に

しか見えない世界があるのも事実です。あらゆる困難が次々と起こるかと思えますが、折笠や猪俣の想いを忘れずに来年の熊本インターハイまで本気で取り組んでいきたいと思えます。

信州総文を通して

書道部 三年 佐藤真衣

私は、8月8日、9日に行われた、第40回全国高校総合文化祭（信州総文）の書道部門に参加してきました。

全国から集められた300点もの作品は、どれもレベルが高く、熱意を感じました。特に私は仮名文字の作品が目に残りました。繊細な線の中に力強さがあり、構成も考え込まれている作品ばかりでとても勉強になりました。一つ一つの作品にそれぞれの思いが込められているのが伝わってきました。私も自分が書いた作品で誰かの心を動かせるようになりたいと思えます。その中に自分の作品が展示されていると思うと、改めて全国大会に出場できた喜び



を感じる事ができました。今後は、学んだことを活かして新たな作品にも挑戦したいと思えます。

交流会では、長野の伝統工芸である水引細工を体験したり、木製のコースターに、筆でそれぞれの思いを書き、班の中で交換しました。他県の人たちと協力して作業をしたり、書道について話し合う機会はなかなかないので貴重な体験ができました。

佐藤真紀先生をはじめとし、ここまで熱心に指導してくださいました先生方に感謝していただきました。入賞できなかったことはとても悔しいですが、この悔しさをバネに、今後の書道活動に生かしていきたいです。この経験をもとに頑張っていきたいと思えます。

信州総文に参加して

写真部 二年 菊地優菜

一日目の生徒同士の交流会では、写真を持ち寄って一冊のアルバムを作りました。知らなかった技術をお互いに教えあったりして、学ぶことが多い時間でした。また、開催地である信州に関するクイズをグループ対抗でしました。グループ内では、全国からきた人たちとたくさん話す機会があり、写真についてだけでなく方言の違いなどの話題で盛り上がり、総文祭ならではの楽しさがありました。

二日目の撮影会では、長野市にある善光寺に行きました。由緒あるお寺の絵を描く子供達や外国の方など多くの方がいて、話したり被写体になってもらったりしました。初めて訪れた地での撮影は、いい意味で自分らしくない作品が撮れただけでなく思いがけない出会いがあり、写真の面白さに触れることができた一日でした。

三日目には、今回出品された作品の写真展に行きました。全国から集められた三百もの作品はレベルの高い作品ばかりで、それぞれの着眼点や撮影方法が新鮮でした。そのなかで自分の作品があることは誇らしくもあり、不足している部分に気づかされて悔しい気持ちにもなりました。

今回、信州総文祭に参加して多くの貴重な体験をさせて頂きました。初めて会う人たち、場所を通して得ることができた感情や感性を自分の財産として、これからの作品づくりに活かしていきたいと思えます。



支部だより

東京登龍会

人見信男会長の想い出

東京登龍会
常任幹事 庄田育夫(高17)

敬愛する東京登龍会人見信男会長が亡くなられてもうすぐ一年が経ちます。旅立つ僅か一週間前に我々会員に渾身の励ましの言葉をかけて頂いたのが昨日のように想い出されます。人見会長を語るとき、生まれ育った白河での超人的な勉学は勿論、バスケットボールにも熱中した白中以来の文武両道を絵に描いたような傑出した方でありました。故郷での人見会長の想い出は多くの皆さんの心に在ると思われまますので、本稿では警察官僚当時から、我が東京登龍会の運営にご尽力された、ほんの一部分に過ぎませんが、衷心から感謝を込めて申し述べます。

いがある。そして、警察官僚としての国民全体への奉仕者としての責任感は極めて強いものがあり、その一つが警察庁交通局長当時にした道路交通法の大改正を英断した。国会答弁での苦勞話を今は懐かしく思い出します。また、警視庁副総監当時は、我々と席を同じくしている際にも大都会東京の事件・事故の携帯ベルがひっきりなしに入る。それらに的確に指示を出し、何事も無いように我々会員とはにこやかに談笑するのである。あの強靱な精神力はいったどこから来るものであろうか。故郷にも白高にも常に真剣に愛情を注いでおられました。長く「しらかわ大使」を務められ、また、我が国を代表する月刊誌の有名記事である「同級生交歓」には白河高校が初めて掲載され、その絶妙な文章力で母校の情報を全国に発信されました。そのお人柄もあり、東京登龍会も若手と云われる多方面で活躍する卒業生の参加が増えました。これも人見会長のお人柄があつたればこそであります。

に葬送の際に我々同窓生が、人見会長がこよなく愛した白高校歌でお見送りしました。遺影の温和な眼差しで「みなさん、どうもありがとう！」と笑顔で振り返る姿がまぶたに浮かびました。ここに謹んで人見会長のご冥福をお祈り申し上げ東京登龍会会員として改めて御礼申し上げます。

西郷支部

総会・交流会開催

支部長 金澤隆夫(高23)

西郷支部平成三十年度総会が八月二十四日(金)に会員二十四名が出席して西郷村の太幸苑で開催されました。校歌斉唱の後、相馬博支部長(高17)の挨拶があり、続いて来賓の西郷村の東宮清章副村長(高27)、同窓会の安田好伸会長(高18)、母校の田中誠校長先生からご祝辞をいただきました。東宮副村長からは伊香保温泉の風呂で「花や一時」を口ずさんだところ、知らない人から声を掛けられ一緒に歌ったとのエピソードが紹介されました。この後、議長に和知有三氏(高22)が選出され、議事では平成二十九年度事業報告と決算報告、平成三十年度事業計画と予算が承認されました。役員改選では、新任として支部長に金澤隆夫が、副支部長に佐藤厚潮氏(高30)が、顧問に相馬博氏が選出され、また再任で副支部長の真船秀典氏(高21)と真船正晃氏(高22)が、監事の伊藤正美氏(高17)と和知七郎氏(高18)が、顧問の須藤保夫氏(高13)が選出されました。

総会終了後の懇親会では、高八回から高三十回までの出席会員が懇親を深めました。

和知肇氏(高14)の句

コップ片手に 乾杯すれば

過ぎし若き日 泡の中に

泡が浮かびし コップの中に

登龍健児の顔並び

同窓会総会に

出席して

齋須幸司(高28)

同窓会総会は還暦を迎えた卒業生が担当するのが恒例で、今年度は昭和51年3月卒業(高28)の私たちが担当しました。

鈴木雅文君を中心に益子朗君、野口俊一君、川口真一君、矢萩裕之君、根本文彦君とともに会合を重ねました。皆さん忙しく

仕事を持つている中で、同期生への総会出席の連絡等役割を担いました。

総会では司会を矢内宏君が、議長を秋元幸一君が行い、両君の温かい人柄が伝わる素敵な進行でした。講演会は、村岡敬一君と仲田茂司君に快く引き受けてもらい、それぞれ「国連持続可能な開発目標」誰一人取り残さない世界の実現に向けて、「ふくしま発里山ビジネス」の演題で講演しました。違う立場からの講演でしたが、両君とも国内はもとより世界に向けた活動、事業を展開していて、その視野の広さ、行動力、そして活気の満ちている様子が数多くのスライドから溢れていました。講演終了時には大きな拍手が続きました。

私たち同期生は、登龍健児として駆け抜けた3年間を礎にして、その後の人生を歩み還暦を迎えました。これからもあの頃の目の輝きを持ち続け、未来に向き合う同期生であると確信しています。

末筆ながら母校同窓会のご発展と同窓生の皆様のご健康をご祈念いたします。

植村美洋氏（高27） 出版文化賞奨励賞受賞

今年度の福島民報出版文化賞（第四十一回）において、本校卒の植村美洋氏（筆名＝白川悠紀）の書かれた小説『白河大戦争』が見事に奨励賞を受賞しました。植村氏は昨年の三月まで長年にわたって県内の高校教諭として勤務されていましたが、その傍らで歴史研究者、作家としても活動され、平成十九年には、小説『浪人』で第六十回福島県文学賞を受賞されています。ご退職後は講演会等でご活躍中で、今年度の東京登龍会大同窓会でもご講演されたほか、今年は戊辰戦争百五十年ということもあって各方面からの講演依頼が殺到し、お忙しい日々を送られています。



今回の受賞作『白河大戦争』は、戊辰戦争の激戦「白河口の戦い」を舞台として、幕末〜維



新の白河に住む武士・町人たちの様々な姿を、史料に基づいて丁寧に、そしてとてもテンポ良く描いた歴史小説で、既に重版も三版を数え、全国の書店で好評発売中です。

ぜひ、ご一読ください。植村さん、受賞おめでとうございました。

※なお、今回の福島民報社出版文化賞の正賞は「相馬市史民俗」が受賞しましたが、本校教諭の鎌水実氏（高33回卒）が執筆者となっていることを申し添えます。

創立百周年に 向けてのお願い

本誌四面の鈴木雅文副会長の記事にもありました通り、創立百周年の記念誌を編纂するにあたり、本校に関係する写真、雑

誌等（生徒会誌「関河」・「白河高校新聞」など）の資料を集めております。卒業生の皆様の中で本校に関する歴史的な写真や資料をお持ちの方がおられましたら、ぜひご協力いただけると幸いです。なお、お預かりしたお写真・資料につきましては、デジタル化（コピー）した後、出来るだけ早くお返しいたします。ご協力いただける方は、以下の住所に直接お送りいただくか、電話にてご連絡ください。よろしくお願ひ申し上げます。

住所 千九六二一〇八五一
白河市南登り町五十四
福島県立白河高等学校
同窓会事務局
電話 〇二四八二四一一一六
(担当・鎌水)

来年度総会のお知らせ

先日の同窓会三役会において、来年度の同窓会総会の日時と会場が、左記の通りに決定しましたので、お知らせします。

期日 平成三十一年
五月十八日(土)

講演会 十六時～十七時
総会 十七時～十八時

場所 東京第一ホテル新白河

表紙の作品について



今井珠泉
(中2)

「白河文化交流館 コミネスの緞帳」

今回の表紙を飾りました作品は平成28年10月にオープンしました白河文化交流館コミネスの大ホールの舞台に取りつけられている緞帳です。

俳句

和知光儀（高2）

白河の関の新駅雪の花
初蝉や少年大志の日は遙か
冬落暉鉄路のはてにかけし夢
横須賀の兄兵たりし夏日かな
学徒兵に鎮魂の雨敗戦日
惚けたる父は枯野の風となり
しがらみを脱ぎて褥に山眠る

叙勲等

平成三十年春の叙勲
瑞寶雙光章
藤田克彦（高16）

訃報

佐川 栄信（高14） 平29・11・16
須藤 茂幸（高22） 平29・12・28
横村 武宣（高3） 平30・5・23
柳 哲雄（高15） 平30・7・28

（叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。）

編集後記

この緞帳は、大先輩の日本画家今井珠泉氏（中2）（再興第98回院展 内閣総理大臣賞）による緞帳原画をもとに、京都西陣織において2年をかけ完成、巾20m、高さ10m、重さ1トンの大作です。この緞帳には、白河市が東日本大震災から力強く立ち上がり飛躍発展することの思いを込めて16羽の鶴が飛翔する姿が描かれています。この緞帳は、白河信用金庫理事長牧野富雄氏（高13）の創立90周年記念事業として白河文化交流館コミネスに寄贈されたものです。

甲子園100回大会、白河の関を越えるか大きな期待に歓喜したすばらしい大会でした。
2022は東京オリンピック、2022は白河高校創立百周年になります。同窓生の皆様には、ご協力、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。
・戊辰戦争から150年、県内では様々な催しが行われております。最大の激戦地白河は以外に知られておらず、この度母校教師でありました植村先生（高27）が「白河大戦争」を出版しました。是非ご一読を。

会報編集委員会

- 会報担当 中村 彰（高20）
- 同窓会副会長 堀川 哲雄（高15）
- 編集委員長 瀬戸 安夫（高22）
- 編集委員 横村 勝己（高37）
- 事務担当 学校 鎌水 実（高33）
- 〃 〃 〃 大竹 儀一（高31）
- 〃 〃 〃 増子 芳道
- 〃 〃 〃 芳賀太伍万（高63）

平成30年度「登龍祭」開催

8月31日(金)・9月1日(土)・2日(日)

31日 開祭式〜校内発表

開祭式は、学校長によるドイツ語での「タンホイザー」の熱唱で幕を開け、大瀧祐加生徒会長、塩田智大生徒実行委員長との劇により一気に雰囲気は盛り上がりました。続く校内発表では、写真部のスライドショー、演劇部・吹奏楽部による素晴らしいパフォーマンスが披露され、最後に同窓生を中心とした教員バンド「ザ・ライジング・ドラゴンズ」による演奏があり、生徒・職員一体となつての盛り上がりの中、登龍祭がスタートしました。

1日 仮装行列

白高前をスタートして、白河市中心市街地を全19クラスの生徒が練り歩き、登龍祭をアピールしました。小雨のため予定されたコースをショートカットしての実施となりましたが、吹奏楽部の先導により、世界・日本の歴史上の場面や人物、アニメのキャラクター、花嫁・花婿、お菓子など趣向を凝らした仮装が続き、沿道に詰めかけたたくさんの方の市民の皆様からは大きな声援が送られていました。

2日 一般公開 3日 閉祭式

午前十時のテープカットと同時に待ちかねていた一般客が続々と入場し、クラス、部活動、委員会等が企画した展示や模擬店など、アイデアを凝らした出し物が披露されました。その間に体育館では、音楽愛好会、吹奏楽部、演劇部、書道部・美術部コラボによるパフォーマンス、さらに有志によるバンド演奏やダンスが披露され、観客の皆さんからは盛大な拍手喝采が送られていました。午後三時までの公開でしたが、約二千五百人の方が来校し、校内は各教室とも人であふれ、食堂や人気企画には長い行列ができていました。

翌日、体育館で閉祭式が行われ、優秀企画の表彰の後、生徒全員での「栄光の架け橋」の大合唱により、登龍祭の幕が閉じました。

